

お知らせ

(1) 核データ評価研究グループ

JENDL 委員会会合から

以下に示すのは、JENDL 委員会（旧シグマ委員会）会合の議事録です。メーリングリスト JNDCmail でも議事録が配布されます。また、核データ評価研究グループの WWW から、JENDL 委員会の会合予定や議事録を見ることができます。

JENDL 委員会 本委員会

2013年2月7日（木）13:30～17:00
原子力機構 東京事務所 第5会議室
出席者 20名

配布資料：

- ・ 平成24年度JENDL委員会本委員会議事次第
- ・ 平成24年度JENDL委員会員名簿
- ・ 平成23年度JENDL委員会議事録
- 01. 高エネルギー核データ評価WG活動報告と次年度以降の計画
- 02. 平成24年度ENSDFグループ活動報告と次年度以降の計画
- 03. 核データ測定戦略検討WG平成24年度活動報告・平成25年度活動計画
- 04. リアクター積分WG・H24活動報告とH25活動計画
- 05. JENDL委員会Shielding積分テストWG活動報告
- 06. 崩壊熱評価WGの平成24年度活動報告
- 07. 核種生成量評価WGの平成24年度活動報告
- 08. 共分散利用WG活動報告
- 09. 国産核データ処理コードの開発に関する提言
- 10. JENDL委員会「核データ処理プログラムWG（仮称）」設置について
- 11. JENDL委員会「JENDL開発検討小委員会」の設立について

議事：

1. 委員長等挨拶
大澤委員長及び深堀委員（原子力機構原子力基礎工学研究部門代表代理）の挨拶の後、会合が開始された。
2. 平成24年度の活動報告及び平成25年度の活動計画
2.1 核データ専門部会
(1) 高エネルギー核データ評価WG
資料-01に基づき、渡辺委員がWGの活動及び計画

を報告した。JENDL/HE-2007に関連部分について FENDL-3.0の最終レポート作成に協力した。JENDL/HE-2007の20MeV以下をJENDL-4.0で置換した更新ファイルを作成したが、JENDL-4.0の不具合等の問題のため公開は来年度以降に見送る。 ^{15}N 及び ^{18}O の陽子共鳴領域のデータを整備した。JENDL/HE-2007の200MeV以上のエネルギーの生成ガンマ線データに問題があることが分かった。JENDL光核反応データファイルは次年度中に公開予定である。平成25年度はCCONEを用いた評価、 ^6Li 及び ^8Be の評価、ガンマ線生成データの評価手法の検討、ベンチマーク解析等を実施する予定である。

(2) ENSDFグループ

資料-02に基づき、専門部会長の柴田委員がWGの活動及び計画を報告した。H24年度はA=118を改訂作業中であると共に、A=120, 126の改訂にも着手した。A=118については今回の評価が終わり次第担当をやめることが核構造データ評価者ネットワークで了承されている。A=128, 129については今回の改訂に限り、ハンガリーが担当する。次年度以降も作業を行い、A=118, 120, 126の改訂版を作成する。新たな人材を探すことが課題である。また、核図表は2014年に出版を予定している。

(3) 核データ測定戦略検討WG

資料-03に基づき、WGリーダーの渡辺委員がWGの活動及び計画を報告した。今年度から12名で活動を開始した。研究者間の協力体制の構築、要求リスト作成の枠組みの構築、核データ測定ビジョンの検討・ロードマップ作成・新規プロジェクトの企画や提案を活動方針としている。H24年度は会合を2回開催し、測定の現状及び活動方針等について協議した。また、WGのHP及びMLを開設すると共に、核データ研究会での活動報告を行った。H25年度はHPの充実、測定のニーズ・要求リストの作成、測定ビジョンの検討を行う。

2.2 炉定数専門部会

(1) リアクター積分テストWG

資料-04に基づき、千葉WGリーダーがWGの活動及び計画の概要を報告した。H24年度はH23年度に引き続き、JENDL-4.0の軽水炉系の適用性評価を行うと共に、感度解析手法やツールの開発の情報共有を行った。成果はH24年度核データ研究会で報告した。H25年度は中性子散乱則の検討、核データ検証用積分データベースの整備、放射化断面積・ガンマ線関連核データの検証等を行う予定。

(2) Shielding積分テストWG

資料-05に基づき、WGリーダーの今野委員がWGの活動及び計画を報告した。JENDL-4.0を用いたFNSベンチマーク実験の解析論文が出版された。OKTAVIANのTOF実験解析結果を遮蔽国際会議で発表した。WG会合を1回開催し、JENDL-4.0のベンチマークテストの進め方を議論し、分担、解析方法、まとめ方についての合意を得た。要望としてNJOYのパッチの配布、炉定数の炉定数作成WGでの整備等の意見が出された。H25年度はJENDL-4.0の解析作業を完了させ、報告書ドラフトの作成を目指す。また、C/Eの変化の原因等の検討についても可能であれば実施する。

(3) 崩壊熱評価WG

資料-06に基づきWGリーダーの吉田委員がWGの活動及び計画を報告した。H24年度はJENDL-FPD/2011の報告書をJAEA-Data/Codeとして刊行した。Idaho及びValenciaのTAGSデータを用いた総和計算で、FP崩壊熱の計算精度が改善されることが示された。本WGはH24年度で終了し、H25年度からは核種生成量評価WGと統合し、核種生成量・崩壊熱評価WGとして活動を行うことが承認された。

(4) 核種生成量評価WG

資料-07に基づき、吉田委員がWGの活動及び計画を報告した。H24年度はPWR、BWR、MOX、高速炉燃料用などのJENDL-4.0に基づくORIGEN2ライブラリ（ORLIBJ40）を公開した。報告書がJAEA-Data/Codeとして刊行される予定である。また、JENDL-4.0uを用いた照射後試験解析、高温ガス炉用ORIGEN2ライブラリ作成法の検討、福島第一原発の核種生成量及び崩壊熱評価法の検討等を実施した。H25年度からは崩壊熱評価WGと統合し活動を行う予定である。

(5) 共分散利用WG

資料-08に基づき、石川委員がWGの活動及び計画を報告した。H24年度は3回目の会合を開催した。主な議事は、JNESにおける軽水炉感度解析計画、JENDL-4.0共分散評価の現状、核融合分野での感度不確定性解析レビュー、ADS設計精度評価におけるMA共分散の現状、次世代高速炉の核設計における共分散利用の試みである。H25年度は新たに共分散が評価される予定核種のテスト計算及び評価、共分散

のニーズの調査、FP核分裂収率及び崩壊定数の共分散評価に関する情報交換等を実施する予定である。

3. WG等設置について

3.1 国産核データ処理コードの開発に関する提言

資料-09に基づき、リアクター積分テストWGからの国産核データ処理コードの開発に関する提言を千葉WGリーダーが行った。核データ処理コードは非常に重要であるが、現在米国のNJOYに大きく依存しており、今後大きな支障が出る可能性がある。リスクを低減するためには国産コードが必要であるが、NJOYと互換性があり、かつより優れた性能を有するものを期待する。開発されたコードは組織的なメンテナンスを要望する。

3.2 核データ処理プログラムWGの設置

資料-10に基づき、原子力機構の須山氏が核データ処理プログラムWG（仮称）の設置を提案した。核データ開発には核データ処理コードが不可欠であり、世界的な現状を考慮すると独自の処理コードの保有は必須である。原子力機構の基礎工学研究部門にタスクフォースを設置し開発を行うことを計画している。国内の様々なニーズを開発に反映させる体制を作るため、核データ処理プログラムWGの設置が提案され、承認された。

3.3 JENDL 開発検討小委員会の設置

資料-11に基づき、石川委員がJENDL開発検討小委員会の設置についての提案を行った。JENDL-4.0が2010年に公開され、その後も不具合対応のアップデートがなされている。今後のJENDL開発についてニーズに基づいた検討を行うため、小委員会の設置が提案された。H25年度の一年間活動し、答申書を提出する。様々な分野から委員を集める事とし、設置が承認された。

4. 学会関係報告

4.1 核データ部会

副部会長の深堀委員から核データ部会の活動について、今後、3月に運営委員の交代、福井大学でのH25年度核データ研究会の開催、炉物理との合同の日韓企画セッションの開催などが予定されているとの報告があった。

4.2 シグマ特別専門委員会

主査の渡辺委員から、シグマ特別専門委員会に関し、学会での部会合同企画セッションの実施、核データ将来検討WG、教科書作成WGの活動についての報告があった。また、シグマ委員会50周年を記念した学会の企画セッションの開催、核データニュースの記念号の発行についての報告もなされた。

5. その他

深堀委員から委員長及び核データ専門部会長の交代の提案がなされ、承認された。H25年度から委員長に山野委員が、核データ専門部会長に原田委員が

就任する。

以 上

核データ専門部会 高エネルギー核データ評価WG

2013年1月31日（木）13:30～17:00
原子力機構 東京事務所 第5会議室
出席者 15名

配布資料：

- HE-12-01 高エネルギー核データ評価WG平成23年度第1回会合議事録（国枝委員）
- HE-12-02 JENDL High Energy Fileアイル化の現状（国枝委員）
- HE-12-03 $^{15}\text{N}+n$ 反応の主要断面積の評価概要と結果図（村田委員）
- HE-12-04 ^{15}N , ^{18}O の核種生成断面積の作成（村田委員）
- HE-12-05 前平衡クラスター模型の高度化と (N, α) 反応断面積の計算（国枝委員）
- HE-12-06 核反応計算コードCCONEの高エネルギーへの拡張（岩本修委員）
- HE-12-07 R行列理論計算コードと共鳴領域における核データ評価（国枝委員）
- HE-12-08 加速器駆動核変換システム核設計におけるJENDL/HEの問題点（岩元委員）
- HE-12-09 JENDL High Energy Fileカーボン断面積のコメント（島川委員）
- HE-12-10 今後の方針案（国枝委員）
- HE-12-11 JENDL/PDファイルの改訂について（岩本信之委員）

報告・議事事項：

1. 前回議事録確認（国枝委員）

配布資料HE-11-01「高エネルギー核データ評価WG平成23年度第1回会合議事録（案）」の内容確認を行った。また国枝委員より補足事項として下記2点に関する報告があった。

- ① FENDL-3.0最終レポート作成の協力に関して、JENDL/HE-2007に関わる部分を執筆しIAEAに送信済みである。
- ② 20 MeV以下をJENDL-3.3からJENDL-4.0に置き換えた新バージョンを既に作成済みである。しかしJENDL-4.0の編集エラー等の情報がこれまでに幾つか寄せられている。更新版のファイル公開は時期尚早と判断し、来年度以降に見送ることとなった。

2. JENDL/HEファイルの状況確認（国枝委員）

配布資料HE-10-02「JENDL High Energy Fileファイル化の現状」を用いて、現時点での評価進捗状況を確認した。格納優先順位が高いが未収録である核種は ^6Li と ^9Be となっている。

3. ^{15}N , ^{18}O の評価計算（村田委員）

配布資料HE-12-03「 $^{15}\text{N}+n$ 反応の主要断面積の評価概要と結果図」およびHE-12-04「 ^{15}N , ^{18}O の核種生成断面積の作成」を用いて ^{15}N , ^{18}O の評価計算結果が示された。陽子共鳴反応に対しては測定データに基づく評価計算を行い、それ以上のエネルギー領域ではTOTELA、TENDLやPHITSコードの計算値を直接あるいは規格化して採用した。核種生成断面積に関しても同様な手法で評価計算を実施した。

4. アルファ粒子生成断面積評価計算手法の高度化（国枝委員）

配布資料HE-12-05「前平衡クラスター模型の高度化と (N, α) 反応断面積の計算」を用いてアルファ粒子生成断面積に対する評価計算手法の高度化に関する報告があった。岩本・原田の模型を導入し、4核子融合過程を評価計算に取り入れた。これまでの評価計算では主に経験則に基づく手法が用いられていたため、パラメータの内外挿性に限界があった。本手法を用いて評価計算を行うと、広い核種やエネルギー範囲で測定データと矛盾の無い断面積を得ることができる。

5. CCONEの拡張（岩本修氏）

配布資料HE-12-06「核反応計算コードCCONEの高エネルギーへの拡張」を用いて評価用計算コードCCONEの高エネルギー側への拡張に関して報告があった。多粒子放出前平衡モデルや岩本・原田モデルを導入し、入射エネルギー約200 MeVまでの評価計算を行えるようにコードを拡張した。また、二重微分断面積の重心系から実験室系への変換手法を進展させた。 ^{27}Al に対する計算を行ったところ、JENDL/HE-2007の評価値よりも精度の高い結果が得られた。

6. R行列理論計算コードの開発（国枝委員）

配布資料HE-12-07「R行列理論計算コードと共鳴領域における核データ評価」を用いてR行列理論計算コードの概要説明、および中性子共鳴反応解析に対する応用例が示された。断面積等の測定データがあれば陽子共鳴反応の評価にも利用できる可能性がある。中島委員、仁井田委員より、LiやBeの (p, n) 反応はBNCT等の中性子源として使われるため、共鳴領域の断面積は需要が高いとのコメントがあった。また、佐藤委員より、生体元素に対する陽子のデータは低エネルギーにおいても陽子線治療開発で必要となる可能性があるとのコメントがあった。

7. 発熱解析におけるJENDL/HE-2007の問題（岩元委員）

配布資料HE-12-08「加速器駆動核変換システム核設計におけるJENDL/HEの問題点」を用いて発熱解析におけるJENDL/HE-2007の問題が報告された。PHITS+JENDL/HE-2007を用いて数GeV陽子入射の発熱計算を行うと、計算値が実験値を著しく過大評価する。一方、PHITSのみで計算すると20%以内で実験値を再現する。調査の結果、JENDL/HE-2007

の入射エネルギー200 MeV以上のガンマ線生成スペクトルに問題があることが分かった（ALICEコードで別途追加計算されているため、非物理的なデータとなっている）。仁井田委員より π^0 生成データを 2γ に変換して再格納してみてもどうかとのコメントがあった。ただし、低エネルギースペクトルの対処法に関して結論は出ず、今後継続して検討することとなった。

8. カーボン核データへのコメント（島川委員）

配布資料HE-12-09「JENDL High Energy Fileカーボン断面積のコメント」を用いて報告がなされた。高温ガス炉の研究開発では ^{14}C の生成量を評価するためにカーボンの同位体別のデータ必要である。JENDL/HE-2007では $^{12,13}\text{C}$ に対する同位体別の評価済みデータがあるが20 MeV以下の評価値は両核種とも天然組成のカーボンのデータである。利用者の誤った使い方を招きかねないので、次期公開予定のファイルではJENDL/A等のデータを反映する等、同位体毎に評価された値を採用すべきであるとの報告があった。

9. JENDL/HE開発における今後の方針案（国枝委員提案＋全体討論）

配布資料HE-12-10「今後の方針案」を用いて今後の計画およびファイル作成の方針を議論した。次年度以降の計画は下記の通りである。

- ① 中重核・重核を中心にCCONEを用いて再評価計算を実施する。主要核種に対しては詳細な評価を行い、それ以外の核種に対しては系統的な評価計算を実施する。
- ② ^6Li 及び ^9Be の評価に関してはCCONEを用いた評価を行う。並行してR行列理論やCDCC計算の導入を検討する。
- ③ 入射核子エネルギー200 MeV以上の反応におけるガンマ線生成データの評価手法を検討する。
- ④ オリジナルのファイルはこれまで通り3 GeVまでのデータを目指す。ただし、その場合は処理済みのデータとして200 MeVまでと3 GeVまでの2セットを作成する。
- ⑤ ベンチマーク解析

10. 光核反応ファイル（岩本信之委員）

配布資料HE-12-11「JENDL/PDファイルの改訂について」を用いて光核反応ファイルの評価進捗状況が報告された。181核種に対する評価およびファイル化を終了し、当初の目的をほぼ終了させた。ファイルは次年度中に公開する。

次回WG会合は未定。

以上

高エネルギー核データ評価WG 光核反応評価に関する小会合

2013年3月28日（木）13:30～17:20

原子力機構 東京事務所 打合せ室A

出席者 3名

配布資料：

PD13-1 $\gamma+^{13}\text{C}$ 反応評価についての疑問点（岩本委員）

PD13-2 中性子生成断面積の修正に関する進捗（小迫委員）

PD13-3 次期JENDL/PDの公開について（岩本委員）

報告・議事事項

1. $\gamma+\text{C-13}$ 反応評価についての疑問点

昨年度会合の決定事項により岩本委員がファイル化の完了したデータをレビューした結果、村田委員が評価したC-13に対して低エネルギー領域における中性子生成断面積が測定データを再現していないことが判明した。この原因はALICE-Fによる核種生成断面積計算の結果から中性子生成断面積を導出する際に閾エネルギーの読み取りを誤ったことによる。配布資料PD13-1により岩本委員が村田委員に評価方法を質問した。村田委員はこの問題を解決するために、 $(\gamma,3n2p)$ 反応の閾エネルギーでBe-8生成断面積（低エネルギーでは $(\gamma,1n1\alpha)$ 反応断面積と等しい）をALICE-Fで計算したクラスター生成断面積（この場合、 (γ,α) 反応断面積）に規格化することにより、 $(\gamma,1n1\alpha)$ 及び $(\gamma,3n2p)$ 反応断面積を再導出したとの回答があった。これに関連して $(\gamma,x3n)$ や $(\gamma,x4n)$ 反応を経由する中性子生成反応の閾エネルギー及び核子生成断面積が修正されたことも併せて報告された。また、ALICE-Fの計算結果を処理して核子生成断面積を導出するコードについて説明があった。次に今回の問題点が修正されたC-12,13, N-14,15, O-16,17,18, F-19, Ne-20,21,22, Na-23, Mg-24,25,26, Al-27, Si-28,29,30, P-31, S-32,33,34,36, Cl-35,37, Ar-36,38,40, K-39,41, Ca-40,42,43,44,46,48（計37核種）及び天然Ne, Cl, Kの評価結果について報告があった。測定データとの比較で問題のあったN-15, Na-23,天然Ne (Ne-20,21,22), Cl (Cl-35,37), K (K-39,41)について村田委員が再検討することになった。なお、修正されたC13の断面積データを基に小迫委員がENDFフォーマットのデータを作成し、岩本委員が再チェックすることになった。

2. 中性子生成断面積の修正に関する進捗

昨年度会合の決定事項により岩本委員がファイル化の完了したデータをレビューした結果、小迫委員が評価した中性子生成断面積において $(\gamma,1n)$ 反応の閾エネルギーと次のエネルギー点との間の間隔が広がったため、閾エネルギー付近で測定データの再現性が悪くなっていた。配布資料PD13-2によりこの問題の修正に関して進捗報告があった。Cr-52, Mn-55, Fe-54, Fe-56, Sn-116について修正された中性子生成断面積が示され、他の核種についても修正は可能であるとの説明があった。しかし、陽子生成断面積

がKAERIの光核反応データファイルやCCONEの計算と比較して系統的に数MeV程度高いエネルギーから立ち上がっていることが報告された。これを改善するために、村田委員から陽子の透過係数を修正するよう提案があり、小迫委員が検討することになった。今後、上記に関する修正が完了したら、岩本委員が修正データと測定データとの比較図を作成し、これを基に小迫委員が評価結果を検討することになった。

3. 次期JENDL/PDの公開について

資料PD13-3により岩本委員が次期光核反応データファイルについて公開までのスケジュールを説明した。公開は2013年9月を予定しており、ライブラリ名はJENDL Photonuclear Data File 2013 (JENDL/PD-2013)とし、核種数は181核種となる予定である。なお、可能であれば核種の追加も検討することになった。また、ファイル化作業と並行して、日本原子力学会英文論文誌 (JNST) へ9月頃の投稿に向けて各委員に評価手法と担当核種の評価結果について論文執筆を依頼した。

次回会合予定
未定

以上

炉定数専門部会

Shielding 積分テストWG

2013年3月21日(木) 13:30~16:30 原子力機構 東京事務所 第4会議室 出席者 9名
--

1. 配布資料

- SI-24-8 議事次第
- SI-24-9 前回議事録
- SI-24-10 JENDL-4.0 の積分テスト
- SI-24-11 JENDL-4.0 の積分テストレポート案
- SI-24-12 ACE ファイルの KERMA 係数に関する注意
- SI-24-13 ORNL ステンレススチール 12in. の JENDL-3.3 による解析結果
- SI-24-14 JAEA/FNS におけるチタンベンチマーク実験速報

2. 議事

- 1) JENDL-4.0 のベンチマークテストの進め方について資料「SI-24-10 JENDL-4.0 の積分テスト」をもとに行うことについて最終確認を行ない、来年度半ばを目標に解析を行うことになった。また、JENDL-4.0 の積分テストのレポートについて資料「SI-24-11 JENDL-4.0 の積分テストレポート案」を元に議論し、来年度末までに最終稿完成を目指すことになった。
- 2) 今野委員が口頭で JENDL-4.0 の炉定数の改訂の

現状を報告。JENDL-4.0 の炉定数の現状は以下の通りで、本 WG での計算では改訂された炉定数を用いることになった。

- 原子力機構原子力標準ソフトウェア開発グループの奥村氏が中心になって改訂が行われている。
 - ACE ファイルは、JENDL-4.0u がでた核種の ACE ファイル入れ替え、物理的におかしな KERMA を全て Kinematic method の KERMA へ変更、 γ 線、電子データの ACE ファイルも作成、等の改訂が行われ、名称も FSXLIB-J40 から AceLibJ40 に変更された。公式に公開のアナウンスはまだされていないが、既に、PHITS にバンドルする形で既に配布されている。
 - MATXS ファイルは、JENDL-4.0u がでた核種の MATXS ファイル入れ替え、物理的におかしな KERMA を全て Kinematic method の KERMA へ変更、前回の WG 会合で報告した 2 次 γ 線データの不具合修正、ガス生成断面積データ追加、等の改訂が行われ、現在、確認作業が行われている。
 - 平成 25 年度早々には改訂された ACE ファイル、MATXS ファイルが公開される予定。
 - 本 WG の活動で使用する場合は、改訂された ACE ファイル、MATXS ファイルを無償で各委員に配布できることになった (原子力機構深堀氏の了解済み)。ACE ファイル、MATXS ファイルが公開されてから、今野委員が希望される委員に配布する。
 - NJOY の JENDL-4.0 用パッチも本 WG の活動に限定して配布しても良いとの了解を原子力機構深堀氏からいただいた。今野委員が希望される委員に配布する。
 - 3/5 の JENDL 委員会で、NJOY コードに代わる国産の断面積処理コード作成を目指して断面積処理コード作成タスクフォースを平成 25 年 4/1 に立ち上げること (既に平成 24 年度から若手中心の NJOY 勉強会が行われている)、JENDL 委員会に「核データ処理プログラム WG」を設置し、核データ処理に対するニーズを汲み上げ、本 WG を指令塔として、実動部隊の原子力機構の断面積処理コードタスクフォースが、作成した断面積処理コードを用いて、2 年を目処に ACE ファイルの作成、更に 2 年をかけて多群ライブラリの作成を行っていくことが報告された。
- 3) 今野委員が、資料「SI-24-12 ACE ファイルの KERMA 係数に関する注意」をもとに、ENDF/B-VII.1 の ACE ファイルに入っている KERMA 係数の問題点を報告 (JENDL-4.0 の改訂される ACE ファイルでは本問題を修正済み)。核データのエネルギーバランスの崩れにより、ENDF/B-VII.1 の 200 以上の核種の中性子 KERMA 係数に問題 (2 次 γ 線データがないため KERMA 係数が何桁も大きくなる、負の KERMA 係数が生じる、等) があることを明らかにし、実際に核計算で用いた場合の影響を簡単なモデル計算で示した。

4) 佐々木委員が、資料「SI-24-13 ORNL ステンレススチール 12in.の JENDL-3.3 による解析結果」をもとに、JENDL-3.3 の多群ライブラリ (100 群) を用いた ORNL ステンレススチール 12in. 実験の再解析を行った結果を報告した。以前、今野委員が行った結果と異なる結果がでてきた。前回と今回で、多群ライブラリの群構造が異なっていたため、群構造を同じにした多群ライブラリを今野委員が作成して佐々木委員に提供し、佐々木委員が再度計算を行って、両者の計算結果の違いを調べることになった。

5) 太田委員が、資料「SI-24-14 JAEA/FNS におけるチタンベンチマーク実験速報」をもとに、原子力機構 FNS で平成 24 年度に実施したチタンベンチマーク実験の速報を報告した。45×45×40cm³ のチタン体系の周りを厚さ 5cm の酸化リチウムで囲んだ体系に DT 中性子を入射し、体系内の反応率分布を測定し、種々の核データを用いた MCNP 計算

結果との比較を行った。その結果、閾反応の反応率はどの核データでも実験を比較的よく再現できることがわかったが、低エネルギー中性子に感度をもつ金の捕獲反応の反応率で、JENDL-4.0、ENDF/B-VII.0 を用いた MCNP 計算は実験値を最大 40% 程度過大評価し、一方、ENDF/B-VII.1、JEFF-3.1 を用いた MCNP 計算は実験値をよく再現できることがわかった。現在、JENDL-4.0 のチタンの核データのどこに問題があるのか検討を進めている。

3. その他

来年度の WG の委員に関し、事務局から変更の有無の問い合わせがきており、現委員の継続を依頼。委員の追加を希望される場合は、4 月上旬を目処に今野委員まで連絡すること。

以上